

決め手はランニングコストの安さ！ 新居にエコキュート+オール電化導入



丸山晃司さん

2歳のお子さまがいる丸山家では、エコキュートの通話機能が活躍。仕事で遅くなっても帰宅後すぐに入浴できるなど、日々の生活を快適にしています。

安全・安心のオール電化 だから台所でも娘と一緒に

結婚後は、エコキュートを備えたオール電化の集合住宅に住んでいました。2歳の娘が歩くようになり、活動範囲が広がってきたのをきっかけに、2018年に一戸建てを購入。ランニングコストが安く、光熱費が抑えられることを実感していたので、迷わずオール電化を選び、給湯はエコキュートにしました。

それに、オール電化の安全性にも惹かれました。娘はママが台所に入るとお手伝いがしたいらしく、後を追っていきます。火を使わないので「調理中も安心して、娘と一緒にいられるのがうれしい」と妻は言っています。



通話機能で、湯上がりの 連携がよりスムーズに

エコキュートにはいろいろな機能がついています。特に活用しているのは、風呂場と台所とで話ができる通話機能。娘と一緒に風呂に入り上がる時、「出るよ」と伝えると、ママがタオルを持って待っていてくれます。もうすぐ家族が増えるので、この機能はますます重宝しそうです。

通常、娘の入浴は午後7時ごろ。9～10時に帰宅することもある私の入浴タイムは、湯を張ってから3時間後になってしまうことがあります。それでも保温機能があるので、追い炊きせず、帰宅後すぐ温かいお風呂に入れるのは、便利です。

その他にも、わが家ではお風呂と、台所・洗面所では異なる温度設定ができます。調理中でも、熱めのシャワーが気兼ねなく使えるのはエコキュートの利点のひとつです。

新居で過ごすのはこの冬が初めて。お湯を使う機会も増えるので、もっと利便性を発見するのではないかと考えています。



台所と風呂場で通話ができるので、子どもの湯上がり対応の連携はバッチリ！



エコキュートの室外機とタンク。ご近所でもエコキュートを導入しているお宅は多いそう。



都市ガス給湯器からエコキュートへ 安全・便利で6人家族の“入浴”を支える

都市ガスの給湯器の老朽化を機会に買い替え、6人家族の入浴を支えるエコキュート。光熱費のコストダウンをねらいつつ、安全性が導入の鍵となりました。



松原一寛さん

湯切れしないように、設定を工夫してうまく使っています。

安心・完全を実感 高齢の両親にも勧めたい

一方、調理や暖房にはガスを使っています。ガス代は、エコキュート導入前の4月が3万735円で、今年の4月は1万3,466円と大幅な削減。

しかしながら、エコキュートを動かしている電気料金は上がっています。原因の一つは小学3年生の息子が一人で入浴するなど、子どもの成長とともに給湯ニーズが拡大したこと。なので、トータルでいくらコストダウンされたかをほじき出すことは難しいのです。

それでも、エコキュートにしてよかったと思うのは、安全面からです。家にあるさまざまな機器が買い替え時期を迎えています。ガス給湯器は古くなると不完全燃焼が心配だし、火事の危険性も考えられます。その点、エコキュートなら不具合が生じたとしても、せいぜいお湯が出なくなる程度で、大事には至らないとも思うと安心感があります。

新湯の実家は、灯油ボイラで給湯しています。灯油を両親がタンクに移して使っていますが、手間がかかるし体力的なことや安全面でも心配です。2年間使ってみて、安全性や経済性の高さを確信したので、給油の手間がいらないエコキュートを、両親にも勧めようと考えています。

比較検討して エコキュートを選択

都市ガスの給湯器を10年以上使い続け、買い替えを検討した際に、太陽光発電や蓄電池などを調べました。機器ごとに、ランニングコストを抑えたり、環境にやさしかったり、いろいろなメリットがあるなかで、わが家を選んだのはエコキュート。光熱費がコストダウンでき、かつ安全性が高いのが魅力でした。

わが家には高校2年、中学3年、小学5年と3年の育ち盛りの4人の息子がいます。皆、風呂好きで毎日午後6時から11時まで、誰かしら風呂にいます。使う湯量が多いので、給湯にかかる費用の削減が最大のポイントでした。

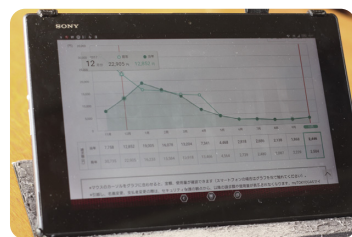
そこで選んだのが深夜時間帯に電気料金の安いプラン。深夜に1日分のお湯(460L)をわかつてタンクにためておくので、光熱費の削減につながっています。冬はお湯で皿洗いをしたり、顔も洗ったりするので、タンクの残湯量が心配でしたが、家事を終えた妻が、最後に入浴する時間帯になっても



6人家族の標準容量は、460L(4~7人用)。風呂場裏の狭いスペースに収まるタンク。



一番風呂に入る小学生の子どもたちが、自主的に掃除係を担当。



電力会社もガス会社も毎月の使用料を、グラフなどを使って提供。毎月の使用量を把握しておけば、安いプランへの変更の検討もしやすい。



大家族だから大きく差がつく！ やっぱりエコキュートは経済的

6人家族の濱本家では、毎日使うお湯の量も並大抵ではありません。それでもエコキュートなら、光熱費を抑えられるうえに、たっぷりお湯も使えます。



濱本沙弥さん

冬場でも光熱費は 1万4,900円

6年前、新築を機にエコキュートを設置。たくさんのメリットを感じています。という

のも、わが家は夫婦と小学2年生の息子を筆頭に、4人の子がいる大家族。毎日の入浴に加えて、冬は手洗いやうがい、食器洗いと頻繁にお湯を使いますが、エコキュートはわが家の給湯ニーズを十分に満たしてくれています。

光熱費の1/3を占めるといわれる給湯費。6人家族だと、コストダウンを図ることは大きな課題です。太陽光発電の利用で、お湯を使うことが少ない6月の電気料は6,140円。夫が寒がりです。冬は暖房費がかさみますが、2月は1万4,900円に抑えられました。結婚前、

一人暮らしのときは、毎日プロパンガスでお風呂をわかしていたので、電気とガスで光熱費は2万円を超えていました。それから思うと、今は夢のようです。

災害時に安心な 大容量の貯湯タンク

2018年7月の西日本豪雨は、倉敷に大きな被害をもたらしました。幸いにわが家は被災を免れたものの、同じ保育園に通うお子さんのお宅が浸水。飲み水のみ配給で、生活用水

に困ったそうです。子どもがいると、緊急時のことは気になりますよね。その点、貯湯タンク内の370Lのお湯は、非常時や災害時に洗濯やトイレで使う生活用水として活用可能なので、エコキュートの存在は頼もしい限りです。

現在、頭の片隅にあるのは、370Lから460Lへの入れ替え。長男は中学校で運動部に入りたいようですし、子どもたちの成長につれ、たくさんのお湯が必要になる予感がします。でも、効率のよいエコキュートなら、光熱費も安く抑えられそうで安心しています。



お風呂のわく時間を予約設定できるので、外出から戻って、すぐに入浴したい時に便利。



エコキュートなら、蛇口をひねればすぐにお湯がでる。冬は冷たい思いをせずに、手洗いもうがいもできる。

